

## 布施祐仁さんに聞く



ふせ ゆうじん  
1976年生まれ。フリージャーナリスト  
専門は外交・安全保障。『日報隠蔽 南スーダンで自衛隊は何を見たのか』  
(三浦英之氏との共著、集英社)で石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞  
他に『日米同盟・最後のリスク』(創元社)、『日米密約 裁かれない米犯罪』  
『ルボ イチエフ』、『経済的徴兵制』(集英社)  
『従属の代償 日米軍事一体化の真実』(講談社現代新書)など著書多数

# 武力によらない平和のリアル

日本政府は「法の支配による国際秩序を」の声あげよ

聞き手

菅岡正道 (自由の森学園高校・校長)

## ●イラン攻撃をどうみるか

**菅岡** 布施さんには今から一七、八年前、「平和新聞」の編集長でいらした頃、生徒たちとの学習会に講師として自由の森学園に來校いただきました。たしか、辺野古の基地建設問題についてお話しくださったかと思えます。時は流れ、昨年一〇月に高市政権が誕生したそのタイミング、一〇月二〇日に「次号の巻頭インタビューは布施さんしかいない！」とメールをお送りし、即座に快諾をいただきました。最新著作『従属の代償』は五刷になったそうで、おめでとうございます。

**布施** ありがとうございます。だいぶ前のことですが、学園にお邪魔したことは覚えています。去年の「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」の講演の時にご挨拶したのが久しぶりの再会という感じでしたね。

**菅岡** 高市政権が誕生し、軍事大国化のフェーズとスピードが上がっていくことは間違いないと思っていました。先、首相就任直後にいわゆる「台湾有事」発言があり、一気に日中関係が悪化しました。布施さんはこの「発言」についても「本当に考えなければならぬこと。高

市首相『台湾有事』発言」(『世界』二〇二六年一月号)などで問題の本質を衝いて発言されておられます。

米国の動きで言うと、今年に入ってベネズエラ侵攻、そしてイラン攻撃、さらにはキューバも攻撃対象として現実味が増しているなど、「戦争国家」米国の無法、無謀ぶりを日々目の当たりにしている状況です。後ほど「台湾有事」関連についてもお伺いしたいと思えますが、まずは、米国がイスラエルと共に行ったイラン攻撃について、短期的な終結、あるいは長期化などの見立てがありますか、布施さんはどうご覧になっていますか。

**布施** 私は、長期化の可能性は低いと思います。なぜかと言うと、トランプ大統領は「タコ(TACO=Trump Always Chickens Out)」って言われていますよね。つまり、トランプはいつもビビってやめる、途中で自ら撤退すると。もちろん、今回は理由があつて、イランに攻撃をしてホルムズ海峡にタンカーが通れなくなり、国際的な原油価格が上がっているわけです。アメリカは世界一の産油国ですが、アメリカで取れる原油もその価格は国際相場/市場で決まる。だから、アメリカの市場で取引されるアメリカの原因の価格もものすごく上がる。そうすると、アメリカの国内のガソリンの値段も上がる、